

研究プロジェクト1： ダイバーシティ教育研究

私たちが目指すもの： 共生社会に向けた教育プログラム研究

社会の多様性が高まる中で、様々な差異を持った人々と共生するための知と技術を使いこなし、また生み出していくことのできる人材が求められています。本センターでは、学内の学部横断型バリアフリー教育プログラム、各種シンポジウム、共同研究等を通じたネットワークにおいて形成された、障害学・ジェンダー研究・クィア理論・エスニシティ研究・開発経済学等を横断する知見を基盤として、差異に対する拒絶的な反応を喚起することなく多様性を包摂する社会の実現に資する教育プログラムの開発を進めています。eラーニング、ワークショップ、授業実践、企業研修等、具体的な各種プログラムを開発するとともに、それらを広く社会に普及させ、持続的に展開していくためのスキーム構築についても、国や自治体、企業、NPO等との連携を視野に入れて積極的に取り組んでいます。

プロジェクト

A: ワークショップ型教育プログラム

- 「障害の社会モデル」理解のための紙芝居を用いた初等中等教育用教材・授業開発
- 「障害の社会モデル」理解のための体験ブース型ワークショップ
- 多様性が活きる組織づくりについて考えるためのアカデミアとビジネス分野の知をつなぐ年間プログラム（OTD研究会）の展開

B: 講師養成プログラムの提供

- 「ダイバーシティ・インクルージョン」講師養成プログラム（OTD認定講師養成プログラム）の展開
- 「心のバリアフリー」講師養成プログラム（OTD認定講師養成プログラム）の展開

C: ダイバーシティに関する理論研究

- ダイバーシティを構成する差異の間にある構造的不均衡とそれらを生み出す社会的要因の分析に関する研究
- インクルーシブ社会を実現するためのダイバーシティ教育の理論と方法論に関する研究

主催定例研究会

(※登壇者等の所属・職名は当時のもの)

第12回 オリパラ教育プログラムとしての補助犬介在教育

橋爪智子（NPO法人日本補助犬情報センター 専務理事兼事務局長）

松本江理（同センター 理事）

中山利恵子（同センター アドバイザー）

第13回 OTD研究会の挑戦

小田桐正治、小林佳子（OTD普及協会）

第14回 酒田市立富士見小学校による紙芝居「車いすユーザーの社会」の授業実践

佐藤克彦、黒沼 誠（富士見小学校）

第15回 「社会モデル」の直感的理解を広げる——ケアフィットによる共同プロジェクトの取組から

佐藤雄一郎（公益財団法人日本ケアフィット共育機構）

第16回 社会モデル×D&Iで目指す未来——OTD認定講師制度の取り組み

青砥 一浩（OTD普及協会、株式会社クロスバリューズ）

第17回 多様な働き方を創出する地域システムの実現

松清 あゆみ（東京大学先端科学技術研究センター）

第18回 Nothing about us without us——共につくる誰もが存在意義のある社会へ

ライラ・カセム（一般社団法人シブヤフォント アートディレクター、東京大学「共生のための国際哲学研究センター」上廣共生哲学講座特任研究員）

研究プロジェクト2： インクルーシブ教育研究

私たちが目指すもの： インクルーシブな学校づくり研究

国連の持続可能な開発目標（SDGs）にも掲げられた「包摂的且つ公平で質の高い教育」をすべての人々に対して達成するために、日本の学校教育は岐路に立たされているといえます。国連の「障害者の権利に関する条約」の批准、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」や「子どもの貧困対策に関する法律」の施行、さらには文部科学省による性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」の周知などを受け、近年、これまで排除・周辺化されてきた社会的マイノリティも、当たり前と共に学べる学校づくりが求められてきています。一方学校現場では、教員の働き方の問題に加えて、新たな社会的要請への対応を迫られる中で、学校現場だけがもしくは研究者のみが、今後の教育の課題と向き合っていくことは限界にきています。私たちは学校現場との連携・協力の下に研究を進めることによって、学校現場と研究的知見の双方を相乗的に発展させながら、インクルーシブな学校づくりの研究に取り組んでいきます。

プロジェクト

A：インクルーシブ教育に関する基礎調査

- ・ インクルーシブ教育に関連する国内外の教育実践の歴史に関する調査
- ・ 国際人権法等、グローバル・スタンダードに即したインクルーシブ教育のありかたに関する研究

B: インクルーシブ教育に関する事例調査

- ・ 大阪府等において行われてきたインクルーシブな学校づくりの実践に関する調査と情報発信
- ・ 「障害の社会モデル」にもとづくインクルーシブな学校づくりに資する教材や研修の開発と効果の検証
- ・ 教育委員会および学校教職員との連携による、インクルーシブな学校づくりに向けた探求的实践

C: 翻訳プロジェクト

- ・ 『Index for Inclusion 4th Edition（The Index for Inclusion Network）日本語版』の作成と公開

主催定例研究会

(※登壇者等の所属・職名は当時のもの)

第16回 コロナ禍の学びに見られる〈こころ〉と〈からだ〉

頓所本一（長野県木島平中学校・教諭）

第17回 早期発見・早期治療の何が問題か

安藤希代子（NPO法人ペアレント・サポートすてっぷ・理事長）

第18回 医療と教育の地平をどう合わせるか——人工呼吸器を使う娘と歩む生々しき実話から

大泉えり（高度医療ケアラー／在宅おふろ研究家）

第19回 「心を見る場」をつくる——公開親プロ・第二弾

牛田美幸（四国子どもとおとなの医療センター・児童心療内科医長）

清水小百合（四国子どもとおとなの医療センター・心理療法士）

望月アン（親プロで子育てする親の会・主宰）

第20回 「発達障害」とされる外国人の子どもたち——これは包摂なのか排除なのか

金春喜（日本経済新聞社・記者）

第21回 いま悩んでいるあなたへ——生きづらさを抱える子どもたちへの応援メッセージ

渡邊洋次郎（リカバリハウスいちご・生活支援員）

第22回 地域に漂う「当たり前」に風穴を——インクルーシブ教育が変えるもの

平田江津子（障害児も地域の普通学級へ・道北ネット事務局長）

第23回 多様ななかで学び育つ子どもたち——「真のインクルーシブ教育」を目指して

佐々木サミュエルズ純子（わくわく育ちあいの会・代表）

第24回 僕の人生は僕のもの——自分に障害があることに気付かなかった件

前田蓮（NPO法人自立生活センタースクラム・相談支援員）

前田美貴代（保育士）

第25回 学校現場の現状からインクルーシブ教育を考える

宮澤弘道（東京都公立学校・教諭）

第26回 国連はなぜ日本に特別支援教育中止を勧告したのか

一木玲子（東洋大学・客員研究員）

佐藤雄哉（東京大学大学院教育学研究科・研究生）

第27回 イタリアのフルインクルーシブ教育の実際

大内進（星美学園短期大学・客員研究員）

大内紀彦（特別支援学校・教諭）

第28回 来年度からのインクルーシブ教育はどうなる？——4・27通知について文科省の人に聞いてみよう

山田泰造（文部科学省初等中等教育局・特別支援教育課長）

平田江津子（障害児も地域の普通学級へ・道北ネット事務局長）

佐々木サミュエルズ純子（わくわく育ちあいの会・代表）

第29回 文科省調査、発達障害8.8%をどう理解すればよいのか

石川憲彦（林試の森クリニック・医師）

第30回 「発達障害」の治療とは～できなさの意味・希望の再発見

石川憲彦（林試の森クリニック・医師）

第31回 フル・インクルーシブ教育とは何かを模索しながら——大阪府豊中市立南桜塚小学校の日常に着目して

橋本直樹（豊中市立南桜塚小学校・校長）

中田崇彦（豊中市立南桜塚小学校・教諭）